

1 研究主題・副主題について

『自ら考え、学び合い、未来を考える須玉っ子の育成』
～1人1台端末をツールとして、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造～

2 研究目標

子どもを「主体的・対話的で深い学び」に導くために、端末を活用し学び合いを活性化させるために教師の手立てについて、その有効性を明らかにする。

～「主体的・対話的で深い学び」とは～

【主体的】とは、子どもたちが自ら進んで学ぶこと。

【対話的】とは、①教材や課題とじっくり向き合うこと②友だちや教師と意見や感想を交わすこと③これまでの自分の考えと向き合うこと。

【深い学び】とは、友だちや教師との関わり合いを通して、新しい考え方に気づいたり、自分の考えを深めたりすること。

3 研究内容

(1) 各学年の発達段階に応じて、段階的に端末を取り入れていく。

第一段階 ①児童が端末を知る・慣れる

②教師が端末を知る・慣れる

③端末使用時のルール確立

第二段階 ①授業で端末を用いる ②授業以外で端末を用いる

第三段階 ①主体的・対話的で深い学びの実現を目指して

日常の取り組み

- ・学級経営・授業づくり・家庭との連携
- ・山梨スタンダードの実現 ・学びの手引き「学習ルール」の徹底
- ・自主学習の取り組み ・QUテスト分析を活用した学級の温かい人間関係づくり
- ・「話し方あいうえお」「つたえよう・つなげよう」の掲示
- ・「家庭学習の手引き」による家庭との連携
- ・スキルトレーニング

(2) 児童の考えを整理したり、児童相互の対話を生み出したりするために、シンキングツールを活用する。

(3) 授業のユニバーサルデザイン化やスキルトレーニングを取り入れる。

4 研究方法

(1) 2つの研究授業ブロックを構成し、研究授業を各1本実施する。

(2) 3つの機能別部会を構成し、それぞれの分野に対する研究を深め職員に提案する。

(3) 講師を招聘した学習会や職員による学習会を開き、端末活用の力を高める。

(4) 職員の活用事例を還流し、まとめる。(ミニミニ校内研の実施、実践資料集作り)

(5) 一人一実践を実施する。